

2022 年度（令和 4 年度）
後期
学生による授業アンケート
調査の結果

2023 年（令和 5 年）5 月

志學館大学事務局学務課
志學館大学 I R 室

令和4年度後期 学生による授業アンケート調査の結果

この報告は、学生授業アンケート結果の概要を示し、個々の教員が自己の担当授業のアンケート集計結果を基に自己点検・評価をするために必要な統計的情報を示すことで、授業の改善を考える上での参考にして貰うことを目的とする。また、これらの資料を分析することで、本学の教育改善に資するための情報を得ることを目的とする。

1. 調査の概要と資料

2022年度（令和4年度）後期の質問及び回答選択肢は、2018年度（平成30年度）以来のものを踏襲した2022年度前期と同じで、以下のとおりであった。なお、以下では質問項目の順序を入れ替えグループ分けしてあるが、この分類はアンケート時に示されていたものではない。

【授業スキル関係】

- Q1. 授業の分量は適切であった（5. 強くそう思う～1. まったく思わない）
- Q2. 授業の進み具合は適切であった（同上）
- Q3. 教員の教え方はわかりやすかった（同上）
- Q4. テキスト、プリント、板書、提示資料等は理解の助けになった（同上）
- Q5. 毎回の授業のねらいははっきりしていた（同上）

【アクティブラーニング関係】

- Q7. 授業には、新しい知識の獲得や発見に、学生を導くような工夫や仕組み、働きかけがあった（同上）
- Q8. 質問や意見を述べる時間が設定されていた（同上）
- Q9. 予習、復習の課題やアドバイスは適切に与えられた（同上）
- Q14. 積極的な参加（自ら考えながらの受講）が求められる授業だった（同上）

【教育の質保証関係】

- Q6. 授業は講義要項に沿った内容であった（同上）
- Q16. この科目の「到達目標」（シラバスに記載）に達することができたと思うか

【学生の学習行動関係】

- Q10. この科目の予習に毎週当てた平均時間（1. していない、2. 30分程度、3. 60分程度、4. 90分程度、5. それ以上）
- Q11. この科目の復習に毎週当てた平均時間（同上）
- Q12. 授業時間内にこの科目を熱心に学習した（5. 強くそう思う～1. まったく思わない）
- Q13. 授業時間外にこの科目を熱心に学習した（同上）
- Q15. あなた自身の取組姿勢の総合評価（10. 高⇔1. 低）

その他 自由記述による意見

Q14は2018年度（平成30年度）のQ10と同じで、Q16は2018年度に新設した質問である。Q8は質問の意図をより明確にするために2021年度後期から「質問や意見を述べる時間が設定されていた」に改めた。Q10とQ11の学習時間の「5. それ以上」は簡易的に120分として分析した。演習科目と共通教育科目のみに係る質問には無回答のものが多かったため、また、大学院課程では資料数が少なかったため、分析対象としなかったのは、2018年度以降同じである。

巻末には質問項目が一定の安定性をみた2019年度前期からの各項目平均値と標準偏差を一覧にして附表としてまとめている。

2. 分析方法と結果

学士課程の今期の開講授業から、アンケート調査の対象となっていない授業や回答なしの授業を除き、249 [276, 260, 280, 253, 262, 249, 256] 授業で回答が得られた（[] 内は、表記順に2022前期、2021後期、2021年度前期、2020後期、2020前期、2019後期、及び2019前期の値である。以下、括弧内において同じ）。このうち回答数が10以上の145 [194, 132, 189, 130, 186, 148, 160] 授業を分析対象とした。2018年度（平成30年度）までは回答数5以上の授業を分析対象としていたが、2019前期以降は回答者10以上の授業科目としてきている。回答数が10未満で分

析対象としなかった授業は104 [82, 128, 91, 123, 76, 101, 96] 授業であった。回答数10以上を分析対象とした理由と、それゆえに分析結果の解釈に統計学的には一定の留保が必要である点はこれまでと同じである。

各授業の質問項目ごとの評価点は、複数の学生（10人以上）による回答の平均値で代表した。これにより各授業が15の質問に対して1つずつ計15の評価点を持つことになる。1つ1つの授業を分析単位として、以下、質問項目ごとに全授業にわたる平均値とその標準偏差を算出した。

2.1 授業の内容及び方法

(1) 回答率

分析対象とした145 [194, 132, 189, 130, 186, 148, 160] 授業の平均回答率（全受講者数で全回答数を除いたもの）は0.38 [0.50, 0.39, 0.58, 0.36, 0.37, 0.44, 0.43] で、昨期より幾分悪くなったが、開講期を揃えて比較すると、1年前の後期分の数値とほぼ同じであった。なお、アンケート対象すべてである249 [276, 260, 280, 253, 262] 授業では、回答率は0.36 [0.51, 0.36, 0.49, 0.33, 0.36] であった。249授業での回答率の平均は、41.0%(SD=.23) [55.1%(SD=.23), 38.2%(SD=.20), 50.3%(SD=.25)]、中央値は36% [55%, 35%, 48%] であった。回答率が8割を超えている科目が5.6% [17.4%, 5.4%, 17.5%]、3割を下回る授業が39.0% [17.4%, 41.2%, 21.1%]、2割を下回る授業が18.1% [6.2%, 15.0%, 10.7%] あった。回答率に関しては例年、後期分データは前期分よりも幾分低い傾向にあるが、今回は2021年度後期と比してほぼ同じか、幾分改善傾向にある。しかしながら一部の授業では教員から学生への周知が未だ不十分であったものとする。

(2) 個票の質問別回答平均値

従前、授業の改善状況は、当該学期と一期前のデータを対置し、主にその比較によって行ってきた。この比較は、ある程度俯瞰的に捉えた大学全体での授業モニタリングといった点でメリットがあったが、比較の対象となる授業がそもそも異なっているという点に難があった。そこで今期より当該学期と2期前のデータとの比較、つまり今年度前期と昨年度前期、今年度後期と昨年度後期の比較を行うこととした。これによって、比較する授業群は理屈の上ではほぼ同一となり、変化や改善の様子をより直接的に捉えやすくなることが期待できる。

授業スキル関係のQ1～Q5の質問への、授業ごとの回答の平均値の分布を図1にヒストグラムで示す。比較のために、左側に今期（2022後期）、右側に昨年度後期（2021後期）の結果を示す（以下、同じ。）。以下の記述は、特に断りのない場合、2021後期データとの比較を行っている。縦軸には相対度数（割合）を取っている。

授業スキル関係のQ1～Q5の結果を図1に示す。Q1 [授業の分量] では、モードは4.5で変化はない。4.75がわずかに減り、4.25が増えている。Q2 [授業の進み具合] では、モード及び分布ともにほぼ変化がない。Q3 [教員の教え方] は、モードは4.5で変化はないが、4.25が増え、4.5が大きく増えている。Q4 [教材等] は、モード4.5で変化はなく、分布も大きな変化はない。Q5 [授業のねらいの明確さ] は、4.75が減り、4.25が増え、モードは4.5のままであった。全体的には、授業スキル関係の評価は、分布がより正規形に近くなりつつあり、変化の度合いは小さいものの改善の方向にあるか、現状を維持しているように見える。

アクティブラーニング関係のQ7～Q9, Q14の結果を図2に示す。アクティブラーニング関係の分布は、これまで授業スキル関係に比べて、左に裾を引く程度が小さく、より正規型に近いものであったが、今回は、特にQ8で負の尖度を取るような扁平な分布となっていた。Q7 [新しい知識に導く工夫・仕組み・働きかけ] は、モードは4.5で変化はなかったが4.5の相対度数は大きくなっていた。Q8 [質問・意見時間の設定] は、先述の通り「質問や意見に適切に対応してもらえた」から「質問や意見を述べる時間が設定されていた」に2021後期に改めたため、この観点の評価は今期から適正に行えるが、モードは4から4.25に1階級上がったものの、尖度が負の値になるなど、扁平な分布で、標準偏差も比較的大きい。授業間で未だばらつきは大きいことが示唆される。Q9 [課題やアドバイスの適切さ] は、モードは4.25で変化はないもののピークは低くなり、分布は全体的になだらかになっている。Q14 [積極的な受講（自ら考えながらの受講）] は、モードは4.25で変化はないが、4.5の割合が増え、4が減っている。

教育の質保証関係のQ6, Q16の結果を図3に示す。Q6 [講義要項に沿った授業] では、モードは4.5で変化なく、4.75の割合が大きく減っている。Q16 [到達目標に達せられたか] では、モード4.25で変化はなかったが、4.5の割合は増えている。

授業ごとのQ1～Q9, Q14及びQ16の質問への回答の評価点の平均値と標準偏差を、質問グループに分けて、表1に2021後期分の平均値と共に示す。

個々の授業で、上記の評価からの「外れ」が小さい（平均的である）と判断する目安として、（平均値±0.5×標準偏差の値）を、表1の下2段（表の上・下限値）に示す。授業科目ごとの平均値がこの範囲に入っていれば「ほぼ平均的レベルにある」と評価できる（統計学的には厳密なものではない）。授業ごとの、教員による自己点検に供されたい。

表1 授業の質問ごとのアンケート結果の平均値と標準偏差等

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
2021後期	4.33	4.33	4.28	4.41	4.36	4.26	4.04	4.09	4.12	4.33	4.18
平均値	4.32	4.31	4.29	4.40	4.32	4.25	3.99	4.05	4.10	4.30	4.17
標準偏差	0.26	0.30	0.38	0.31	0.29	0.34	0.51	0.33	0.42	0.24	0.24
上限値	4.45	4.45	4.47	4.55	4.47	4.42	4.24	4.21	4.31	4.42	4.29
下限値	4.19	4.16	4.10	4.24	4.17	4.09	3.73	3.88	3.89	4.18	4.05

(3) 「優れている」及び「改善を要する」授業数

明らかに優れている又は改善が必要と判断する目安として、平均値±1.96×標準偏差の値を表2示す（表2の上・下限値）。また、この上・下限値の範囲を外れ、「優れている」と「改善が必要である」と評価される授業数を中2段に示す。下2段には比較のために2021後期分を示す。

今期は、質問項目ごとの「優れている」が0～2授業（0～4, 0～6, 2～8, 1～5, 1～4, 0～5, 0～2授業）で、昨期及び2021後期と比べ少なかった。「改善を要する」は、0～5授業（5～10, 1～6, 3～9, 2～7, 5～10, 1～6, 4～9授業）と昨期より大きく減少し、比較可能な過年度データ中で最も少なく、極端に低い評価の授業が総じて減少してきていることを示すと解釈できる。なお、「優れている」授業より「改善を要する」授業が多い傾向は、図1及び図2で見られるように、左に強く裾を引く分布を示す項目の場合、平均値から下方に大きく離れた値が多いために生じたものである。

表2 授業の質問ごとのアンケート結果の平均値と標準偏差等

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.83	4.89	<u>5.02</u>	<u>5.00</u>	4.89	4.91	4.98	4.70	4.93	4.77	4.65
下限値	3.81	3.72	3.55	3.79	3.75	3.60	2.99	3.40	2.28	3.83	3.70
優れている授業数	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
改善が必要な授業数	4	2	3	3	3	0	0	3	3	4	5
優れている (2021後期)	1	1	0	1	0	1	4	4	2	2	6
改善が必要 (2021後期)	6	7	6	5	6	3	2	3	3	5	1

(4) 回答平均値の分布の変化に見られる改善と課題

適切に実施されたと受け止められている授業が多く、またその程度が向上していることを示唆している傾向は、2017年度（平成29年度）から継続している。

質問グループごとでみると、授業スキル関係に比べて、アクティブラーニング関係及び教育の質保証関係では、学生の納得度はやや低かったと言える。具体的には、Q8, Q9, Q14, Q16であるが、このことは、学生の能動的な学習を引き出す取り組みや、シラバスに記載された「到達目標」に達することができたかといった点では課題が残っていることを示唆している。この点は、過去7期の報告書で、Q9, Q14, Q16の一群で回答平均値が最も低いと指摘した課題が続いていると言える。教員が授業計画・実施上で未だ意識する程度が低いことや学生に対する科目の到達目標の説明不足等を反映していると推量され、依然として、今後の課題である

また2021年度後期より質問内容を変更したQ8の平均値はわずかに4に下回っており、Q9も他と比較すると低い値に留まっている。2021後期と比較すると、ほとんどの項目が2021後期分とほぼ同値でほとんど変化は見られない。

2.2 学生の学習行動

学習行動に関する質問Q10～Q13, Q15の結果を、図4と表3に示す。Q10（予習時間）及びQ11（復習時間）は、選択肢「1. していない」を0分、「2. 30分程度」を30分、以下順に「3. 60分程度」は60分、「4. 90分程度」は90分、「5. それ以上」は120分と便宜的にリコードし処理した。

予習時間の平均は19分（19, 17, 18, 17, 17, 15, 17分）、復習時間は25分（26, 25, 26, 24, 23, 21, 22分）で多くなく、例年とほぼ変わらなかった。予習時間のモードは20分、復習時間のモードは30分で昨期と変化はなく、分布の形もほぼ同じであった。

ヒストグラムからも、予習より復習にやや重みが置かれている傾向が看取できる。予習も復習も全く行っていないとの回答が、引き続き多かったが、少数ながら1時間以上の予習、復習を引き出している授業もあった。

授業内外での学習熱心度では、これまでの結果と同様に、Q13「授業外学習」の自己評価が際立って低かった。授業時間内には総じて熱心に取り組んでいるが、授業時間以外での学習にはあまり取り組んでいない様子は、先の予習及び復習時間が少ないという結果と整合している。

Q15「自己の学習態度の総合評価」の平均値は、5点満点に換算すると、4.0（4.0, 4.0, 4.0, 4.0, 3.9, 3.9）程度であった。授業外の学習が少ないにも関わらず、当該評価が比較的高いといった、これらのことは、授業外での学習の不活発さをあまり意識していない本学学生の学習意識を示すものと考えられる。Q15はモードが1つ上がり8.5となった。

表3 授業の学習行動に関する質問ごとの結果の平均値と標準偏差等

	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
2021後期	16.7	24.7	4.27	3.83	8.09
平均値	18.5	25.3	4.27	3.76	8.04
標準偏差	11.7	10.4	0.25	0.31	0.50
上限値	24.4	30.5	4.40	3.91	8.29
下限値	12.6	20.1	4.15	3.61	7.79

2.3 自由記述

過去には、自由記述欄への記載事項を、ポジティブとネガティブな意見に区分した検討を行ったこともあったが、全体的な傾向に顕著な変化は、引き続き見られないと判断し、今期もこの分析は割愛した。

3. まとめ

本期の質問項目を、授業のスキル（内容や方法を含む）、アクティブラーニング、教育の質保証関係に分けた分析は、6期前から継承したものである。質問項目ごとの評価点の平均値及びその分布から、アクティブラーニングや教育の質保証に関する領域での学生の納得度はやや低いとみられる点は、6期前から変わっていない。

学生の学習態度については、これまでと同様に、予習・復習に割いている時間や授業外学習への取組み度からみて、改善はあまり進んでいないと評価できる。もちろんこの改善には、時間を

要すると考える。

これらの結果から、本学の授業は実施手法は確実に改善しているが、学生の自主的な学習行動を引き出したり、学習の達成感を感じさせるところまでは至っていないという点は、改善に向けた課題として続いている。

2017年度（平成29年度）の本分析開始以来、質問事項や選択肢に改善を加えてきた。現在の質問は、学生の能動的な学習行動や学修の達成感を問う質問も含まれており、今後暫くは概ね継続したモニタリングに利用できるものと考えられる。

先述の通り、前期分より後期実施分は、全体的に悪化する傾向はあるが、今期の回答率はどの指標を見ても昨期（2022前期）よりも悪くなっていた。授業アンケート実施の趣旨に照らし、授業担当者からの働きかけを行うなど、一層の回答率向上が望まれる。そのためにも調査結果等を授業改善に活用する姿勢が授業担当者には求められる。

また今回の調査で特徴的な結果を2つ指摘することができる。一点目は、いずれもAL関係を問うQ8（質問・意見時間の設定）とQ9（予復習課題等の適切な提示）の評価の低さであり、この傾向は2022前期に引き続きである。Q8は平均点が3点台であり、Q9はわずかに4を超える値であり、AL関係が他の視点に比して、引き続き低い評価になっていることは間違いない。前回の報告書でも指摘したとおり、授業スキル等の改善に比して、本質的なALの推進を授業に織り込むことが容易ではないことを踏まえると、AL関係の評価が容易に高まっていないことは、裏を返せば、AL関係の項目が洗練され、より評価の妥当性が高まっている可能性が考えられる。加えて、斯様な授業アンケートに馴化した学生が、ポジティブ方向のご祝儀的な評価ではなく、より正確な信頼性の高い評価を提供してくれるようになった可能性も考えられる。天井効果によって、改善や変化の傾向が検出しづらくなっていることもデータの分布等からは考えられるため、もしもそうならこれは歓迎したい。

今回の調査で特徴的な結果の二点目は、「改善が必要な授業数」の減少傾向である。先述の通り、明らかに優れている又は改善が必要と判断する目安として、平均値±1.96×標準偏差の値を上限値、下限値として設定し、この範囲を外れた授業数を検討している。必ずしも正規性が保証されているわけではないが、理屈の上ではこの範囲に全体の95%が入ることになるが、2021後期と比して、下限値以下の授業数が大きく減少している。特に「授業スキル関係」でこの傾向が強い。ただし「AL関係」のQ9〔課題やアドバイスの適切さ〕やQ14〔積極的な受講（自ら考えながらの受講）〕では変化はなく、Q16〔到達目標に達せられたか〕ではむしろ増加している（授業数1→5）。授業スキル関係の改善が進む一方で、AL関係や質保証関係の一部では進んでいない傾向は、他の結果と整合的である。

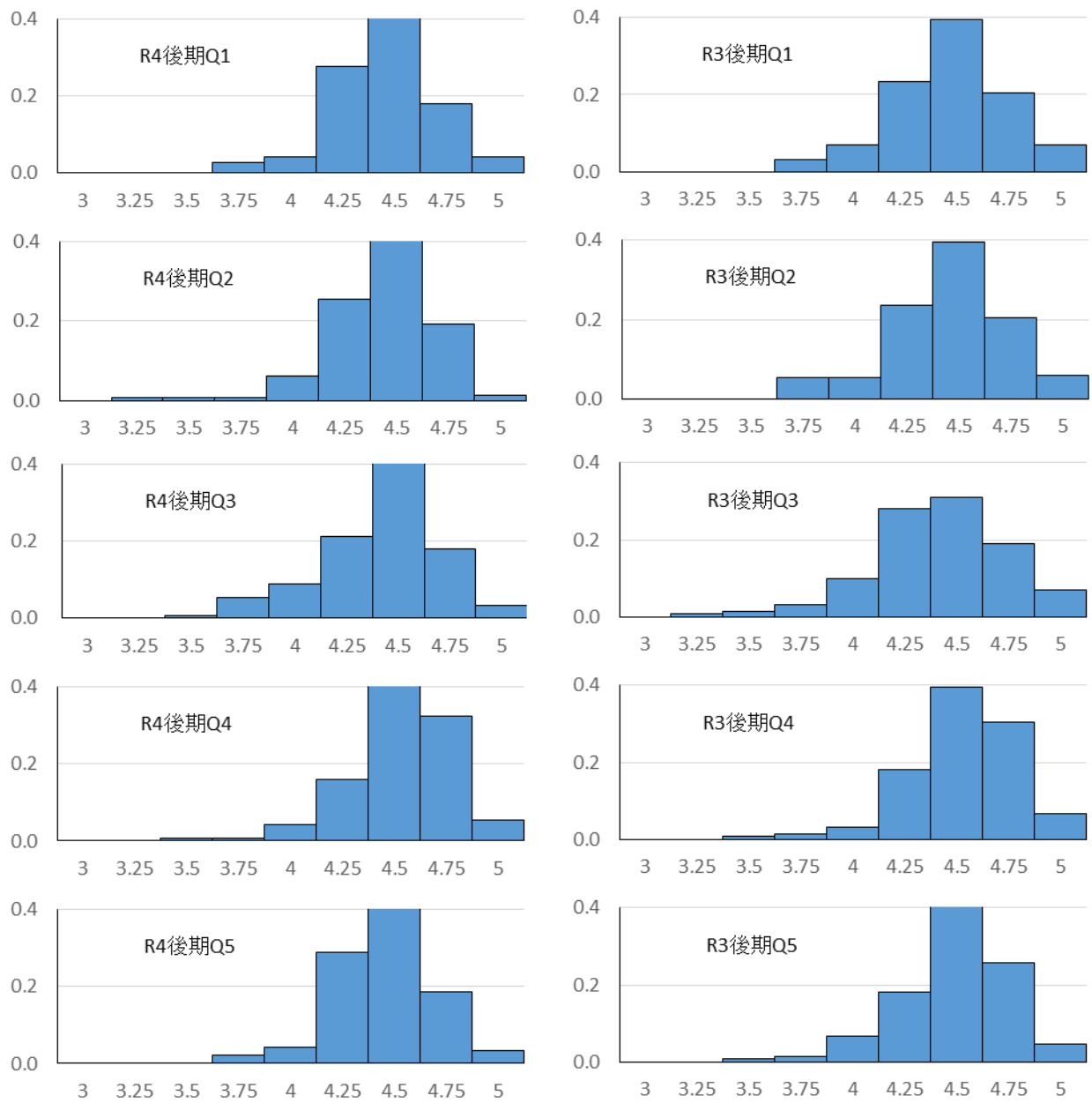


図1 質問項目ごとの回答平均値の分布 (Q1~Q5) : 授業スキル関係

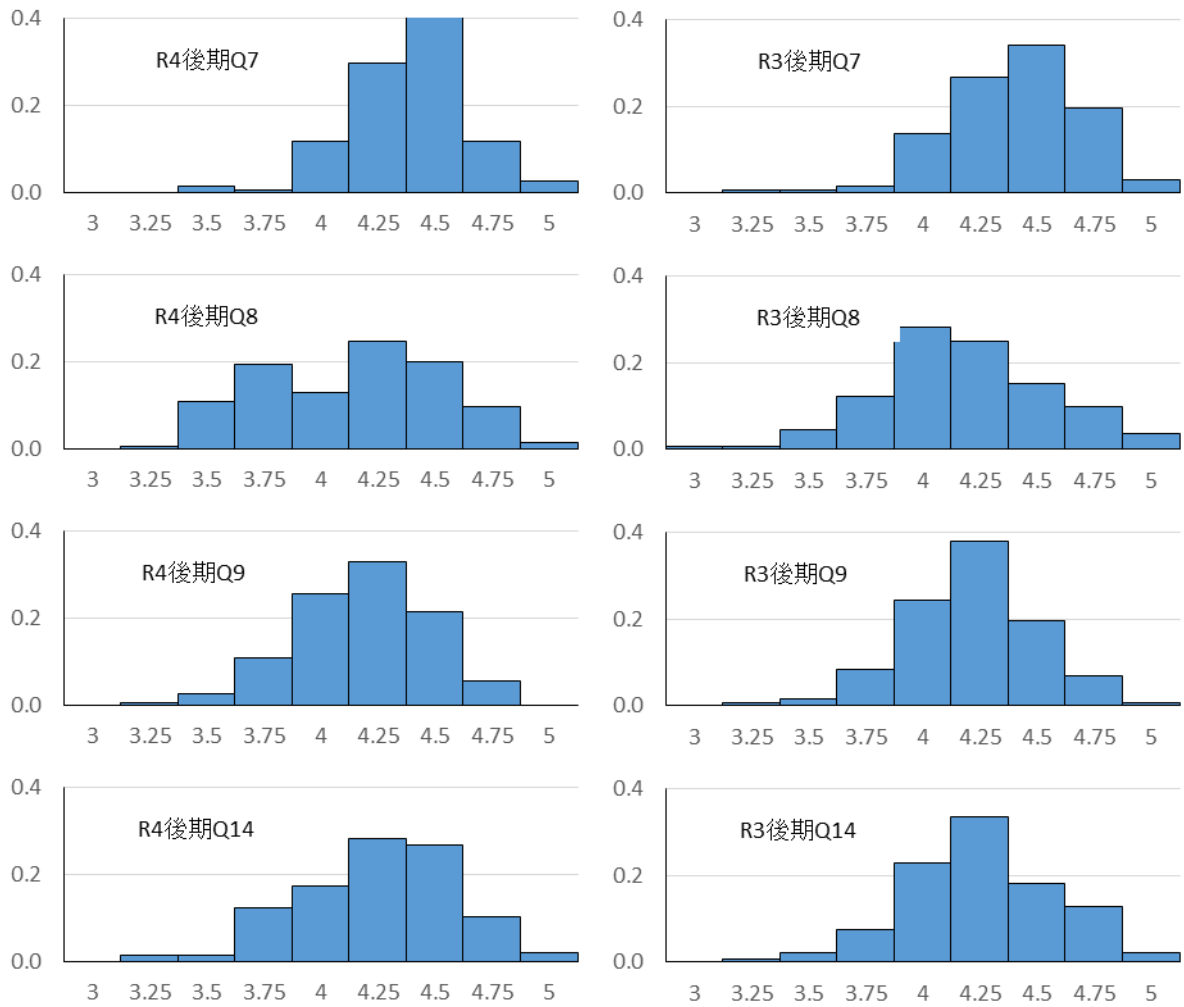


図2 質問項目ごとの回答平均値の分布 (Q7～Q9, Q14) : アクティブラーニング関係

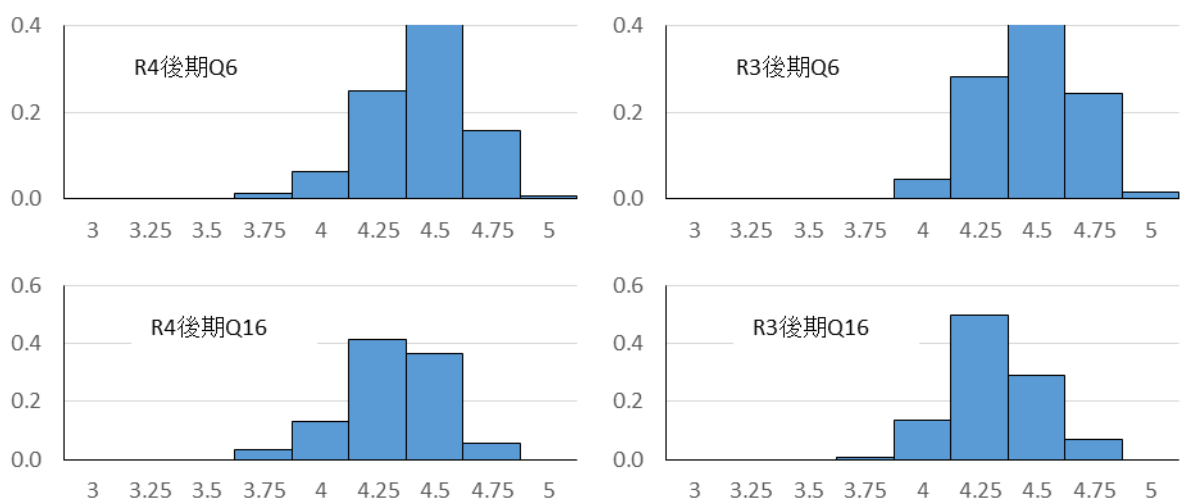


図3 質問項目ごとの回答平均値の分布 (Q6, Q16) : 教育の質保証関係

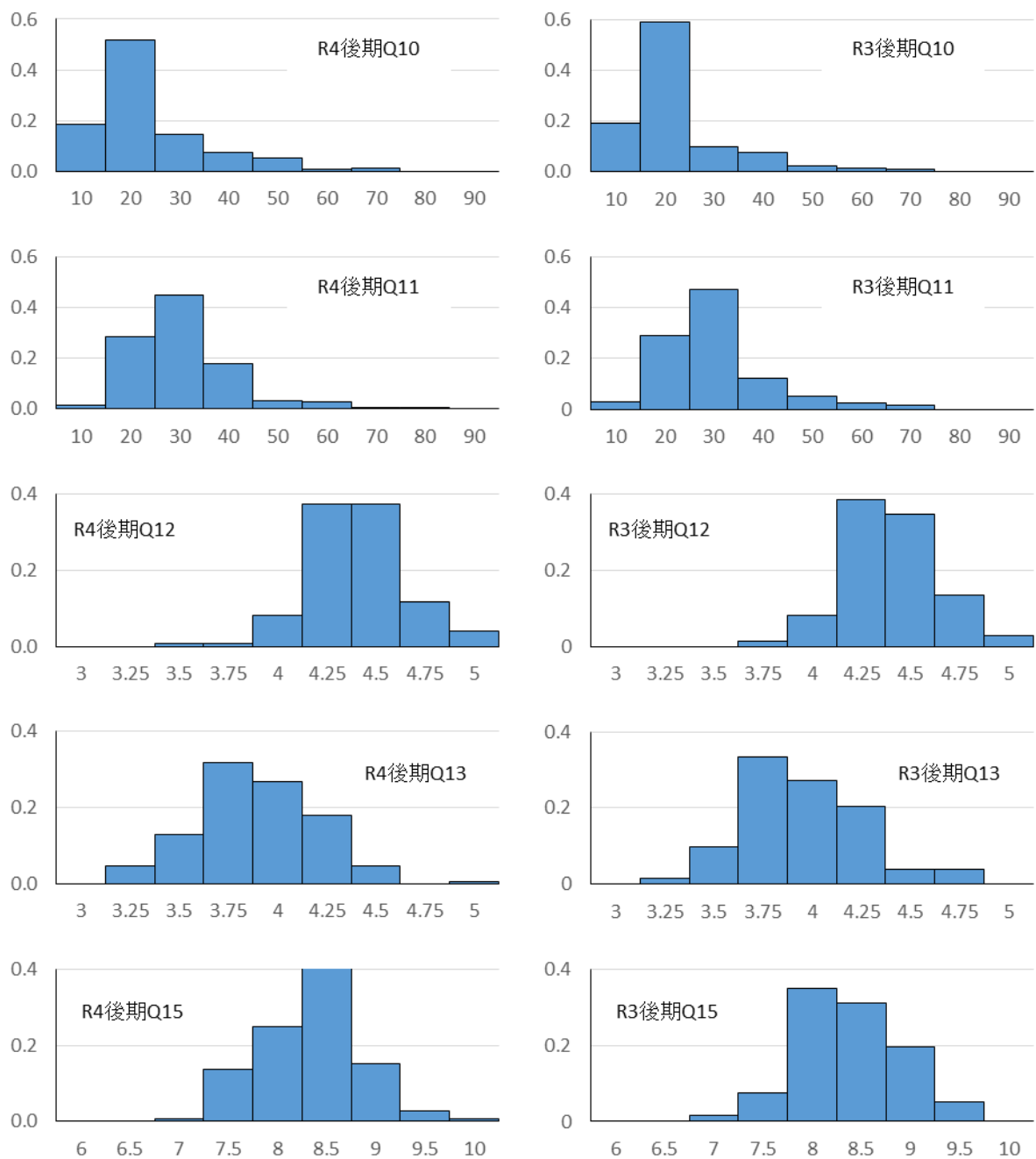


図4 質問項目ごとの回答平均値の分布(Q10～Q13, Q15)：学生の学習行動関係

附表1 Q1～Q9, Q14及びQ16の平均値及び標準偏差

【前期】

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
2019 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q6	Q16
平均値	4.21	4.17	4.14	4.25	4.22	4.16	4.14	4.12	4.01	4.02	4.00
標準偏差	0.29	0.33	0.39	0.33	0.33	0.31	0.34	0.34	0.34	0.40	0.27
2020 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.23	4.19	4.15	4.28	4.23	4.13	4.13	4.01	4.02	4.18	4.04
標準偏差	0.31	0.34	0.41	0.31	0.30	0.35	0.34	0.32	0.37	0.26	0.26
2021 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.26	4.23	4.19	4.31	4.26	4.19	4.16	4.07	4.07	4.25	4.12
標準偏差	0.25	0.27	0.33	0.28	0.28	0.29	0.28	0.30	0.33	0.23	0.21
2022 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.26	4.23	4.19	4.32	4.27	4.19	3.93	3.98	4.07	4.24	4.11
標準偏差	0.26	0.30	.38	0.31	.29	0.34	0.51	0.33	0.42	0.24	0.24

【後期】

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
2019 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.26	4.24	4.21	4.33	4.29	4.19	4.19	4.07	4.06	4.23	4.07
標準偏差	0.28	0.30	0.35	0.28	0.27	0.29	0.30	0.28	0.35	0.34	0.20
2020 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.29	4.28	4.24	4.39	4.32	4.21	4.18	4.09	4.08	4.27	4.11
標準偏差	0.25	0.28	0.33	0.26	0.26	0.28	0.30	0.28	0.34	0.24	0.23
2021 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.33	4.33	4.28	4.41	4.36	4.26	4.04	4.09	4.12	4.33	4.18
標準偏差	0.26	0.28	0.33	0.27	0.26	0.29	0.37	0.27	0.33	0.23	0.21
2022 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.32	4.31	4.29	4.40	4.32	4.25	3.99	4.05	4.10	4.30	4.17
標準偏差	0.26	0.30	0.38	0.31	0.29	0.34	0.51	0.33	0.42	0.24	0.24

附表2 Q10～Q13及びQ15の平均値及び標準偏差

【前期】

	学習行動関係				
2019 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	17.4	21.9	4.08	3.65	7.76
標準偏差	12.4	10.7	0.30	0.37	0.66
2020 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	16.6	23.4	4.16	3.65	7.87
標準偏差	11.0	11.9	0.28	0.37	0.60
2021 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	18.3	25.6	4.20	3.77	7.92
標準偏差	11.2	10.6	0.24	0.33	0.54
2022 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15

平均値	19.3	26.1	4.22	3.71	7.94
標準偏差	11.8	11.6	0.27	0.37	0.61

【後期】

	学習行動関係				
2019 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	15.0	20.7	4.13	3.63	7.89
標準偏差	10.4	10.0	0.27	0.36	0.52
2020 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	16.5	23.5	4.20	3.73	7.97
標準偏差	11.4	9.9	0.25	0.31	0.55
2021 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	16.7	24.7	4.27	3.83	8.09
標準偏差	10.0	10.0	0.25	0.31	0.53
2022 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	18.5	25.3	4.27	3.76	8.04
標準偏差	11.7	10.4	0.25	0.31	0.50

附表3 「優れている」及び「改善を要する」授業数（上・下限値：平均値±1.96×標準偏差）

【前期】

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
2019前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q6	Q16
上限値	4.78	4.82	4.91	4.90	4.86	4.77	4.80	4.80	4.67	4.80	4.53
下限値	3.65	3.52	3.38	3.61	3.58	3.55	3.48	3.45	3.35	3.24	3.48
優れている数	1	1	1	0	1	0	2	0	1	0	2
改善が必要な数	8	8	7	4	9	7	8	7	7	6	4
2020前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.83	4.86	4.95	4.90	4.83	4.82	4.79	4.64	4.75	4.69	4.55
下限値	3.63	3.52	3.35	3.66	3.64	3.44	3.46	3.38	3.29	3.67	3.54
優れている数	0	1	0	0	0	2	4	1	4	1	4
改善が必要な数	8	10	8	7	8	6	7	5	6	10	5
2021前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.75	4.76	4.83	4.86	4.81	4.75	4.71	4.65	4.73	4.70	4.53
下限値	3.77	3.69	3.54	3.76	3.72	3.63	3.60	3.48	3.42	3.80	3.71
優れている数	4	4	4	2	3	3	5	5	4	5	8
改善が必要な数	6	7	3	5	9	5	3	6	4	4	5
2022前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.77	4.81	4.93	4.93	4.84	4.85	4.92	4.63	4.90	4.71	4.58
下限値	3.75	3.64	3.46	3.72	3.70	3.53	2.94	3.33	3.25	3.77	3.63
優れている数	4	4	1	0	2	0	0	1	2	4	4
改善が必要な数	8	6	8	8	7	10	5	7	5	8	7

【後期】

2019後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.80	4.83	4.90	4.88	4.81	4.76	4.78	4.62	4.76	4.68	4.56
下限値	3.72	3.65	3.52	3.78	3.76	3.62	3.60	3.53	3.37	3.78	3.59
優れている数	2	0	2	2	3	1	3	5	2	2	3
改善が必要な数	3	4	6	4	3	3	6	2	1	1	3
2020後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.79	4.83	4.88	4.91	4.83	4.76	4.76	4.65	4.75	4.74	4.57
下限値	3.79	3.73	3.59	3.88	3.81	3.66	3.59	3.53	3.41	3.80	3.65
優れている数	3	2	3	1	2	3	5	3	2	2	2
改善が必要な数	5	6	4	6	5	7	2	4	3	4	6
2021後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.85	4.87	4.93	4.93	4.87	4.83	4.77	4.62	4.77	4.78	4.59
下限値	3.82	3.79	3.67	3.88	3.84	3.69	3.31	3.55	3.46	3.89	3.76
優れている数	1	1	0	1	0	1	4	4	2	2	6
改善が必要な数	6	7	6	5	6	3	2	3	3	5	1
2022後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.83	4.89	<u>5.02</u>	<u>5.00</u>	4.89	4.91	4.98	4.70	4.93	4.77	4.65
下限値	3.81	3.72	3.55	3.79	3.75	3.60	2.99	3.40	2.28	3.83	3.70
優れている数	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
改善が必要な数	4	2	3	3	3	0	0	3	3	4	5